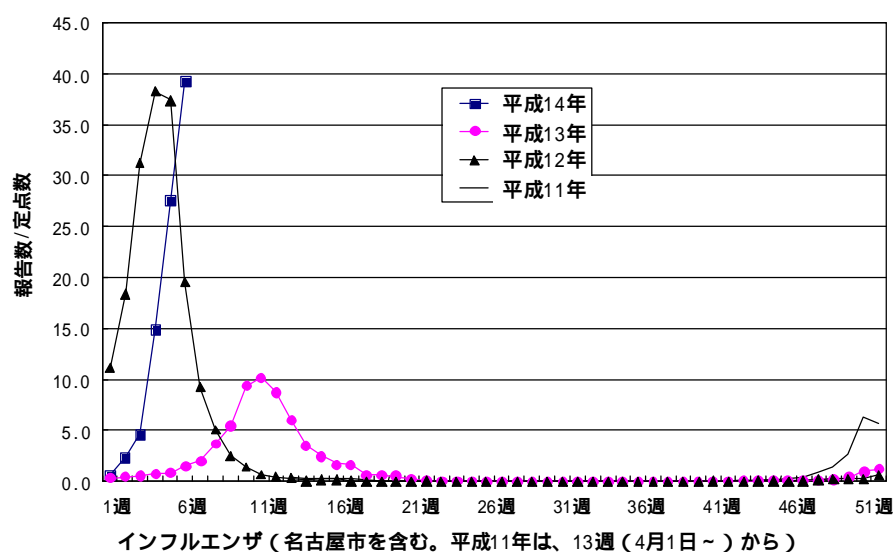


愛知県感染症情報

平成 14 年第 6 週 (2 月第 1 週)

(コメント)

インフルエンザは急増していてピークをむかえつつありますので、注意してください。インフルエンザの流行予測については、衛生研究所のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) もご覧ください。



(定点の先生方からのコメント)

- 尾張西部地区
 - ・ インフルエンザ 41 人。9 ヶ月から 37 歳まで全年齢で見られる。うち B 型 10 人。B 型のうち 1 回ワクチン接種者 1 人、2 回 4 人、他は接種なし。感冒性胃腸炎やや多く、低年齢で入院例あり。
(一宮市 あさのこどもクリニック)
 - ・ 9 歳女兒マイコプラズマ肺炎。インフルエンザ 11 名 内クイック「生研」で確認 A 型 4 名 B 型 5 名
(一宮市 後藤小児科医院)
 - ・ O1 7 ヶ月女、O126 32 歳女
(尾西市 城後小児科)
 - ・ 連区内の小学校でインフルエンザのため学級閉鎖が 1 クラス、又短縮授業のクラスも少し出ました。
(一宮市 田中内科小児科医院)
 - ・ インフルエンザ急増 A 型 16 名、B 型 6 名。A 型 1 名、B 型 1 名はワクチン 2 回済みでした。
(一宮市 平谷小児科)

- ・ A 型インフルエンザが増えてきましたが、まだ、5 対 1 ぐらいで B が主体です。

（津島市 田中こどもクリニック）

- ・ インフルエンザは A 型 28 例、B 型 27 例。仮性クループも流行りはじめました。ロタ様の腸炎も流行っています。生研のキットはニトロセルロース膜でした失礼しました。

（犬山市 武内医院）

- ・ インフルエンザが急増してきました。大部分は A 型で早期にアマンタジン* 投与で 2~3 日で下熱しております。1~2 割はワクチン接種済です。

（江南市 みやぐちこどもクリニック）

アマンタジン* : A 型インフルエンザ治療薬

- ・ インフルエンザ大流行、B 型中心です。学級閉鎖相ついでいます。ほとんど B 型中心。B 型 197 例、A 型 50 例、この中に、麻疹、アデノ様疾患の小流行もあり、判定に困難があります。クイックインフル* A(-)、B(-)でもインフルエンザ様症状あり(タミフル* に反応)。キットの問題あり。

（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）

インフル A・B クイック* : A 型及び B 型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

タミフル* : A・B 型インフルエンザ治療薬

- ・ インフル A・B クイックで A 型 9 人 B 型 10 人陽性。陽性には出ないが熱発者はそれ以上に多い。

（新川町 三輪医院）

- ・ インフルエンザウイルス B 型より A 型の方が多い様です。8 ヶ月男、1 歳 5 ヶ月男、12 ヶ月女ロタウイルス(+)でした。

（春日町 丹羽医院）

● 尾張東部地区

- ・ インフルエンザは B 型が多くみられます。B 型 34 例中 3 例は 2 回予防接種済です。マイコプラズマ感染もあり、肺炎とインフルエンザの合併例もありました(8 歳女)。溶連菌感染症も多くみられます。

（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ インフルエンザ流行しています。B 型が多数みられます。(A 型は少なく、主に幼児で見られるようです。中、高生は圧倒的に B 型が多いです)。インフルエンザと平行してマイコプラズマ感染症の流行も続いております。溶連菌感染症は少し落ち着いてきたようです。水痘やや増加。

（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）

- ・ インフルエンザ小 6、中 1 を中心に集団発生 B 型多し(タミフル著効例多い)
 - (南知多町 医療法人大岩医院)
 - ・ 2 歳男 インフルエンザ A 5 分間の痙攣後 30 分以上強直姿位 抱水クローラル、シンメトレル* 胃内注入。グリセオール等で数秒間後意識回復、肝機能は正常、アンモニアも正常、低 Na 血症(+)。
 - (美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
 - シンメトレル* : A 型インフルエンザ治療薬
 - ・ インフルエンザ姉 B 型、弟 A 型の家族内感染例ありました。A、B ともに陽性が 4 例。A 22 例、B 14 例。
 - (春日井市 朝宮こどもクリニック)
 - ・ 今週は感染性胃腸炎は減少し、インフルエンザが流行しています。
 - (春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ インフルエンザ A と B 流行している。年長者に B 型多し。例年より有熱期間短い。インフルエンザ肺炎にて 1 名入院。
 - (小牧市 小牧市民病院)
 - ・ インフルエンザは A と B ともに流行。A は B のほぼ 2 倍でした。
 - (小牧市 志水こどもクリニック)
 - ・ 水痘 5 歳女 予防接種済みの方です。マイコプラズマ (2 歳女、3 歳男、31 歳男、5 歳女)。
 - (小牧市 医療法人心匠会鈴木小児科)
 - ・ 学生低学年、幼稚園、保育園児にインフルエンザ流行。
 - (東海市 小児科ハヤカワ医院)
- 西三河地区
 - ・ マイコプラズマ肺炎 6 歳女
 - (豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
 - ・ インフルエンザ A 型 6 人、B 型 6 人
 - (豊田市 医療法人やふそ小児科)
 - ・ 2 歳女水痘は 2 月 5 日に発症(高熱 40.6)そのまま高熱が続き、9 日インフルエンザ A 発症、ウイルスの重複感染。11 歳女麻疹、ワクチン未接種発熱は 38.0 で上気道のカタル症状軽度(非定型的)
 - (岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)
 - ・ ロタウイルス(1 歳男, 1 歳と 2 歳女)
 - (岡崎市 医療法人深田小児科)
 - ・ インフルエンザ急増 53 例中検査で B 型とわかったもの 13 例
 - (岡崎市 花田こどもクリニック)

- ・ インフル A・B クイックで A9 例、B1 例でした。
(岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院)
- ・ B 型インフルエンザ 31 人 (インフルエンザの 3 分の 1) A と B4 人。
病原性大腸菌 O166 VT (-) 8 歳男、O1 VT (-) 8 歳男
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ カンピロバクター腸炎 6 歳男。年長児のインフルエンザは B 型が多い。
麻疹 MMR ワクチン接種済み 10 歳男。流行性耳下腺炎 MMR ワクチン
接種済み 11 歳男。異型肺炎 1 名。乳児嘔吐下痢症 1 名。
(岡崎市 医療法人川島小児科水野病院)
- ・ インフルエンザ増加、A 型のみでなく B 型も多い
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ 21 名、A 型 15 名、B 型 7 名
(岡崎市 粟屋医院)
- ・ インフルエンザ A 型インフル A・B クイック A (+) 2 名 (1 名弱陽性)。
キャピリア FluA・B* A (+) 9 名 (4 名弱陽性、1 名ワクチン 1 回接種、
2 組家族感染)。インフルエンザ B 型インフル A・B クイック B (+) 5
名 (1 名ワクチン 2 回接種)。キャピリア FluA・B B (+) 3 名。キャ
ピリア FluA・B A (+) B (+) 1 名 (B 弱陽性)
(岡崎市 医療法人永坂内科医院)
キャピリア FluA・B* : A・B 型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診
断キットの一種。
- ・ キャピリア FluA にていずれかが陽性を呈したケースのみです。
(岡崎市 村山医院)
- ・ FluA (+) 5 例、FluB (+) 11 例、FluA・B 共 1 例
(刈谷市 田和小児科医院)
- ・ まだインフルエンザ流行中です。
(刈谷市 まついこどもクリニック)
- ・ インフルエンザ引き続き流行しています。(B のほうがやや多い)
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ インフルエンザワクチン接種者 小学生 1 名、中学生 1 名。発熱
(安城市 医療法人鳥居医院)
- ・ インフルエンザ B が多いです。インフルエンザ A に感染してその後イン
フルエンザ B に感染する児童あり。
(知立市 宮谷こどもクリニック)
- ・ インフルエンザ A2 名 B5 名 A・B クイック陽性
(西尾市 やすい小児科)
- ・ インフルエンザ A6 名 B6 名 A・B クイック陽性、今のところ急激な増

加は認められません。

(西尾市 山岸クリニック)

- ・ インフルエンザ A 型男 2 人。B 型男 3 人、女 2 人。

(足助町 愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院)

- ・ インフルエンザが流行中です。インフル A・B クイック A 型 7 人。B 型 28 人。

(三好町 三好町立三好病院)

- 東三河地区

- ・ インフルエンザ A、B とも (A > B ですが) 大流行

(蒲郡市 蒲郡市民病院)

(1~3 類感染症の発生状況)

報告はありません。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

Q 熱患者 1 名。

病原体検出情報

平成 14 年 2 月 13 日現在、県衛生研究所に搬入された 98 検体から、A ソ連型インフルエンザウイルス 29 株、A 香港型インフルエンザウイルス 25 株、B 型インフルエンザウイルス 24 株が分離されており、3 種類のウイルスによる混合流行と考えられます。また集団発生については豊橋市保健所管内からは A 香港型が、豊田市、一宮、半田保健所管内からは B 型が分離されており、学童の集団発生は B 型が主流と考えられます。抗原性は A ソ連型と A 香港型はワクチン株と類似していましたが、B 型は全てワクチン株とは異なるビクトリアタイプでした。

インフルエンザ月別分離数

発生動向調査	12 月	1 月	2 月	合計
患者数	13	72	13	98
A ソ連型		26	3	29
A 香港型	1	17	7	25
B 型	1	21	2	24

集団発生	12 月	1 月	2 月	合計
患者数		31	30	61
A ソ連型				0
A 香港型		5		5
B 型		7	7	14

インフルエンザ保健所別分離数

発生動向調査	A ソ連型	A 香港型	B 型
一宮	8	4	6
稲沢	1	12	
刈谷	1	1	2
江南	2	5	
春日井	3	1	2
津島	3		2
半田	6		10
豊川	2	1	1
衛研	3	1	1

集団発生	A ソ連型	A 香港型	B 型
豊田市 1/22			7
豊橋市 1/22		5	
一宮 2/ 6			6
半田 2/ 6			1

第4週（14年1月21日～1月27日）の4類感染症の全国状況

インフルエンザは九州地方、東海地方、関東地方で定点当たり報告数が多くなっている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は過去5年間の同時期と比較して、定点当たり報告数がやや多くなっている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は山形県で定点当たり報告数5.2、富山県で3.3と多くなっている。感染性胃腸炎は山形県（定点当たり報告数17.9）、福井県（17.6）、宮城県（17.4）などで報告が多くなっている。水痘は新潟県、福井県で定点当たり報告数4.6、山形県で4.0と多くなっている。伝染性紅斑は例年にくらべ報告数がかなり多くなっており、秋田県では定点当たり4.3の報告がある。流行性耳下腺炎は2001年第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、2002年も年初より報告数が多く、とくに沖縄県（定点当たり5.7）、石川県（5.0）、富山県（4.0）などで報告が多くなっている。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数4.3、茨城県で3.6の報告があり、例年の同時期と比較してやや報告数が多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋）

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

平成14年2月7日

WHO疫学週報抜粋抄

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2002年1月4日号(77巻1号)

エボラ出血熱：アフリカ、ガボン共和国のその後：1月1日時点で死亡23例を含む32例の確定診断例が保健省に報告されている。20例はガボン、12例は隣接するコンゴの村落の報告。接触者についての継続調査実施中。

レブラ(本邦ではハンセン病が一般的ですがWHOの表記によりレブラとします)の世界の状況。2000年末で人口1万当たり罹患数1以下。85年になってやや増加、その後暫減。最近の国別届出数一覧表あり。いまだに常在しているのは15カ国、主としてアジア、アフリカ、ラテンアメリカ地区に分布している。00年の頻度で目立つのがインド(10万当たり3.8)、ブラジル(4.6)、ネパ-ル(3.4)などである。多剤併用療法の普及状況(インド、ミャンマ-などで努力されている)は国によって差があり、問題が多い。

2002年1月11日号(77巻2号)

エボラ出血熱：アフリカ、ガボン共和国のその後：1月7日時点で34例の確定診断例が保健省に報告されている。21例はガボン、13例は隣接するコンゴの報告。接触者231例についての継続調査実施中。

メジナ虫(注：水系感染経口寄生虫症。中間宿主はミジンコ。虫卵で汚染された水で腸管から侵入、全身感染後下腿皮膚表面に尾部を出して産卵、重症の皮膚炎や関節炎をおこす)：01年1月-9月。アフリカ諸国。アフリカにおける常在地区9カ国(ベニン、ブルキナファソ、中央アフリカ、チャド、象牙海岸、マリ、モ-リタニア、ニジェ-ル、ト-ゴ)のメジナ虫撲滅担当者の会議が10月29日-31日、ベニンのコトヌ-でWHOやユニセフなどの協力で開かれた。実態調査からはマリ共和国の30%増以外は各国とも減少中となっている。各国の状況が報告されている。

02年1月の国際検疫病流行地一覧：ペスト、コレラ、黄熱病の各国郡単位の一覧表。インフルエンザ：ベルギ-(A型とB型)、フランス(A型)、スペイン(A型)。

2002年第1週～第6週(平成13年12月31日～平成14年2月10日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	191	182	35	51	13	17,037	29	1,021	6,374	1,883	125	236	630	1	9	22	144	1,169	2	145	0	1	0	19	0	0
総数 (名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	13,547	24	749	4,215	1,447	93	176	467	1	7	17	130	986	2	101	0	1	0	19	0	0
名古屋 名古屋市	70	70	11	14	1	3,490	5	272	2,159	436	32	60	163		2	5	14	183		44						
尾張東部 瀬戸	9	9	2	3	1	950	2	152	218	100	3	6	26		1	5	4	52	1	5						
海部 津島	7	7	2	2	1	670		7	366	80	1	5	24			2	45		9							
尾張中部 師勝	4	4	1	1		291		8	292	32			10			1	6		4							
尾張西部	一宮	12	8	2	3	1	555		70	377	103	2	7			11	28	1	4							
	稲沢	4	4	1	1		383		22	183	58		11	15		1	33	12		1						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	560		84	242	162	22	44	48		2	8	31		4						
	江南	6	6	1	2		800	8	52	279	110	1	11	7		1	8	31		5						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,001	1	32	178	31	3	6	8		1	14	31								
	知多	7	7	2	2		1,443	4	16	243	47	20	16	36		2	2	39								
西三河南部	岡崎	12	8	2	3	1	1,413	1	90	20	178	16	28	63	1		3	8	176		37					
	刈谷	6	6	1	2	1	916	1	55	60	95	6	6	25			1	10	11					1		
	安城	5	5	1	2		811		27	303	72	8	6	15			11	35		4						
	西尾	4	4	1	1	1	154		14	163	20		1	17		1		16		8				1		
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	772	5	23	240	67	7	14	36			3	118		6					7	
	足助	3	3		1		193		7	86	17		4	18			1	22								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	1,598	1	59	504	167	3	5	43			14	212		14		1			7	
	豊川	7	6	1	2	1	905	1	28	421	64		6	24		6		103							3	
	田原	2	2				103		3	40	25			9				5								
東三河北部	新城	2	2			1	29			19	1							13								

